

屋内祭祀の舞台（４）

—赤砂・小砂利の「祭壇状遺構」再論—

石坂俊郎

1 第4篇にあたり

本稿では、かつて主題とした「祭壇状遺構」の屋内における姿（石坂 2017、以下「拙論（１）」）について、汎南関東的な視野で再論したい。これまでは当該の遺構分布が濃密な大宮台地地域を中心に論を重ねてきたが、八王子市神谷原遺跡（93）の存在が象徴的に示すように、より広域にわたる状況の確認と総括が課題であった。各論を追って回を重ねた結果、遅きに失した観はあるが、本稿はそれを果たすべく今回に位置づけた。

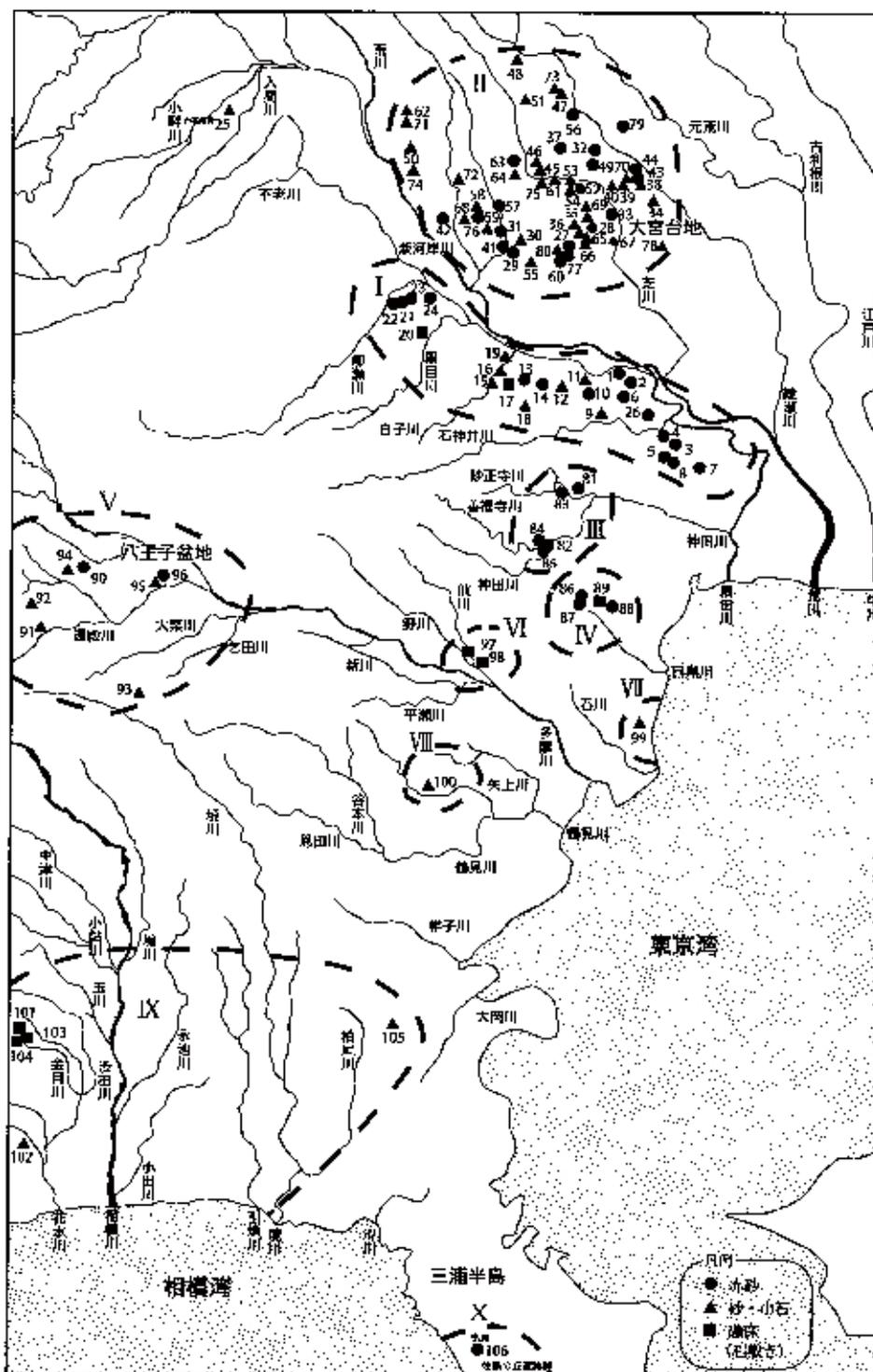
着手後間もなく、合田芳正・関森八重美による同じ主題による論考（合田・関森 2019）に出会い⁽¹⁾、収集・精製未だおぼつかなかった多くのデータとともに、広域的な見通しを期せずして与えられた。そこでは、南関東における当該遺構の分布状況を地域ごとにまとめ（第1図）各概況を論じるとともに遺構単位の基本的データを表形式にまとめ包括的に提示している。また自然科学的分析の結果を統合的に紹介している点は、本稿では取り上げ得ないが、今後の研究の指針を示していると言えるだろう。そして遺構の意味づけについて所説を紹介しつつその考察へと進む。本稿では、それらの成果を参照しつつ筆者なりの再論を果たすことを目的とする。

それにあたり、大宮台地地域については拙論（１）を基本とする筆者のデータに基づき⁽²⁾、その他の地域については、基本的に合田・関森論考のそれを用いて表1を作成した。Ⅲ～Ⅹの地域名称も同様だが、遺跡番号は、整理の都合上最北の大宮台地地域（地域Ⅱ、表1では「Ⅰ」）から新たに付け直し、合田・関森論考番号を併載して参照の便を図った。第1図は、論考からの転載であるから遺跡番号もそのままであり、一方第2図の遺跡番号は、筆者によるものである。文中の遺跡番号は後者に統一した。煩瑣になってしまったことをご容赦いただきたい。

2 分布概況

第1図に示された遺跡分布では、一見して地域Ⅱ（大宮台地地域）と地域Ⅰ（武蔵野台地北東地域、表1では「Ⅱ」）とりわけ前者への集中が際立っている。両者は併せて「南武蔵北部様式」（古屋 2014・2017）圏の北半にあたる。それに対し地域Ⅲ・Ⅳ・Ⅵ（同前「南武蔵北部様式」圏南半）では、当該の遺跡数は多くないが、新宿区落合遺跡（83）、中野区広町遺跡（84）をはじめ地域の拠点集落が含まれている点が注目される。地域Ⅴ（八王子盆地地域）は、内陸部の孤立的立地ながら神谷原遺跡をふくむ7遺跡が確認されており、やはり分布の集中地域として注目される。また地域Ⅸ（相模湾岸地域）では、地域Ⅴの南にあたる相模平野西辺部を中心に5遺跡が確認されている⁽³⁾。一方地域Ⅵ（の一部）・Ⅶ・Ⅷ（同前「南武蔵南部様式」圏）では遺跡数が際立って少なく、状況は対照的である。このほか地域Ⅹ（三浦半島）でも1遺跡が確認されている。

時期的分布状況では、弥生時代中期後半宮ノ台式期～古墳時代前期⁽⁴⁾という大枠は汎南関東的に観ても同様なようだ。中期宮ノ台式期8遺跡のうち7遺跡は地域Ⅱに所在し（第2図、表1-1・2）、残る1例は地域Ⅷの横浜市大塚遺跡（102）である。前7遺跡は後期以降類例が



第1図 関連遺跡分布図 (合田・関森 2019)



弥生時代中期後半の遺跡（図中○）
 北宿（19）、大北（30）、太田窪貝塚（32）、大和田本村北（41）
 上野田西台（46）、下野田本村（47）、谷ノ前（49）

第2図 大宮台地周辺詳細分布図（縮尺1：150,000）

I 荒川左岸：大宮台地							番号 合・関 遺跡名 調査地点 遺構 時期 規模 (cm) 文献																
1	74	稻荷台	A・B・C区	48	古	100 × 80	3	19	54	北宿	17次	107	後	90 × 45	30								
				49	古	105 × 70					22地点	49	後	150 × 130	6								
				51	古	70 × 50					25地点	90	後	25 × 15									
				53	古	55 × 55					26地点	95	後	45 × 40	7								
2	62	峰岸北	1次	11	古	140 × 75	64	20	65	井沼方	12次	40	後	80 × 40	35								
				21	古	120 × 90					41	後	50 × 40										
3	71	C-26	1次	1	古	100 × 50	58	21	66	井沼方南	13~15次	59	後	20 × 15	43								
				4	古	70 × 55					64	後	35 × 35										
4	50	土屋下	1次	1	後	? × ?	60	22	-	本太5丁目	16次	79	古	100 × 60	42								
				2	後	60 × 30					1地点	4	後	60 × 30	43								
				30	後	180 × 130					3地点	13	後	65 × 45	7								
				40	後	20 × 15					4地点	12	後	90 × 35									
5	-	C-8	1次	4	後	? × ?	79	23	30・31	別所子野上	1次	1	後	200? × 100?	5								
				45	後	50 × ?					1次	1	後	90 × 50	11								
6	42	大久保領家片町	5地点	30	古	110 × 50 70 × 60	39	24	55	白幡上ノ台	4次	8	後	110 × 70	32								
7	68	本壺	3地点	9	古	160 × 110	27				10	後	80 × 50										
8	41	西堀上ノ宮	1次	1	後	30 × 20	36				25	28	西谷	5区	3	後	30 × 20	37					
				3	後	40以上 × -								2	後	60 × 35	13						
9	58	札之辻	1次	51	後	35 × 20	2	26	29	善前南	1次	4	後	63 × 54	14								
				72	後	90 × 50					5	後	45 × 35										
10	59	札之辻3号	3次	7	古	44 × 44	73	27	67	宮前	2次	6	古	50 × 45	71								
				12	古	50 × 45					1	後	42 × 30	15									
11	72	側ヶ谷戸貝塚	4次	1	古	100 × 90	69	28	69	梅所	1次	1	後		62 × 48	18							
12	76	日向北	4・5次	15	後	90 × 60	81				29	35・36	大間木会ノ谷		1次		3	後	85 × 75	16			
				20	後	100 × 40		1次	3	古					25 × 15	23							
				22	末初	80 × 50		2次	8	古	100 × 70			25									
				43	後	60 × 40		3次	15	古	83 × 53				29								
13	57	中里前原北	1次	2	後	60 × 50	68	30	27	大北	12~14区	2	中	85 × 65	13								
				3	後	20 × 10					3	中	90 × 55										
14	64	北袋	1次	Y-2	後	- × -	54	31	61	中原後	2次	7	古	50 × 40	33								
				Y-5	後	65 × 25					2	中	70 × 40以上	45									
15	63	B-7	1次	Y-28	後	100 × 65	57	32	80	太田窪貝塚	1次	13	中		140 × 70以上	17							
				Y-3	後	90 × 60					1	古	95 × 85										
16	76	立葉	2次	4	後	98 × 33	78	33	53	松木北	3次	6	後	120 × 60	9								
				8	後	130 × 80					2	後	95 × 45	85									
				9	後	90 × 70		34	77	小谷場貝塚	6次	10	後		50以上 × 47	87							
				15	後	100 × 50					9次	30	後	- × -									
17	52	馬場北	2次	16	後	130 × 80	19	35	60	大谷場小池下	1次	12	後	135 × 55	72								
				17	後	80 × 70					13	後	150 × 110										
				79	後	50 × 50					14	後	80 × 45										
				81	後	60 × 60					17	後	90 × 40										
				18	-	馬場東		1次	96	後	- × -	28	36	-	芝原	3次	1	古	200 × 120	34			
									102	後	- × -					37	45	鎌倉公園	1次	25	後	70 × 65	52
									77	後	55 × 40 40 × 25								26	後	- × -		
									134	後	50 × 50					27	後	- × -					
19	54	北宿	17次	138	後	100 × 60	30	38	46	A-61	1次	1	後	50 × 35	55								
				141	後	25 × 25					3	後	90 × 60										
				143	後	50 × 50					6	後	30 × 20										
				54	中	40 × 20					7	後	55 × 30										
				76	後	60 × 60					8	後	85 × 70										
				98	後	63 × 63					11	後	110 × 30										
				87	後	34 × 25					13	末初	55 × 55										
				88	後	50 × 35					14	末初	60 × 45										
				93	後	100 × 85					17	後	30 × 20										
				94	後	85 × 55					19	後	100 × 30										

表1-1 遺構一覧(1)

番号	合・関	遺跡名	調査地点	遺構	時期	規模 (cm)	文献	番号	合・関	遺跡名	調査地点	遺構	時期	規模 (cm)	文献					
38	46	A-61	2次	23	後	90 × 70	65	60	21	西原大塚	西原特定地区土地区画整理事業	45地点	213	後	120 × 50	89				
				24	後	70 × 30														
			2次	8	後	40 × 35	56													
				19	末初	120 × 80														
39	49	三崎台	3次	28	後	50 × 25	62													
				37	後	70 × 60														
				52	後	130 × 100														
				14	古	90 × 70														
40	37	御蔵山中	3次	15	古	45 × 30	63													
41	51	大和田本村北	2次	10	中	40 × 35	66													
						60 × 50														
42	73	深作東部遺跡群	A区	16	後	130 × 75	53													
43	47	深作稲荷台	2・3次	13	後	100以上 × 70	59													
				17	末初	70 × 45														
				26	古	55 × 45														
44	48	中里	1次	8	後	170 × 90	61													
56	56		3次	1	後	40 × 35	67													
45	—	染谷遺跡群	1次	S-17	古	90 × 50	51													
46	32	上野田西台	3次	3	後	100 × 80	20													
				8	後	— × —														
				13	後	50 × 30														
				18	後	145 × 75														
				22	中	— × —														
47	44	下野田本村	5次	24	後	45 × 30	24													
				15	後	86 × 62														
48	38・43	下野田稲荷原	1次	25	中	70 × 40	76													
				1	後	40 × 35														
			5次	2	後	100 × 110	4													
				41	後	— × —														
			7次	57	後	104 × 88	49													
				58	末初	120 × 70														
			11次	100	後	50 × 43	75													
				112	後	75 × 60														
				114	後	62 × 50														
				115	後	90 × 82														
49	70	谷ノ前	1次	1	中	12 × 12	26													
50	33	大崎北久保	1次	2	末初	70 × 55	40													
			2次	10	古	50 × 20														
51	39	東裏	3次	2	後	85 × 60	41													
				3	後	140 × 115														
52	40	東裏西	1次	2	後	125 × 95	44													
			2次	4	後	128 × 68														
53	34	行谷	2次	3	後	80 × 80	46													
				4	後	150 × 100														
				6	後	50 × 30														
				8	後	85 × 50														
54	79	横根野方	1次	3	後	40 × 25	80													
55	—	木曾呂北	1次	4	後	55 × 55	82													
56	78	戸塚5丁目	2・4次	4	後	? × ?	83													
				3	後	70 × 40														
			5次	4	後	? × ?	84													
				1	後	60 × 40														
			6次	2	後	100 × 40	86													
			II 荒川右岸：武蔵野台地沿岸部																	
57	25	鶴ヶ丘	F区	1	後	100 × 60	1													
				11	後	100 × 50														
				12	後	— × —														
				22	後	80 × 60														
				1	後	80 × 50														
				3	後	100 × 70														
			C区	6	後	— × —														
				7	後	— × —														
				9	後	115 × 60														
				10	後	100 × 55														
				11	後	60 × 50														
				13	後	120 × 70														
				11	古	100 × 40							88							
58	24	富士前	15地点	1	古	100 × 40	88													
59	23	中野	49地点	14	後	45 × 35	90													
				15	後	45 × 35														
60	21	西原大塚	36地点	142	末初	140 × 100	93													
				144	末初	110 × 40														
			37地点	169	末初	60 × 50	94													
			43地点	131	後	110 × 45	95													
			45地点	200	後	110 × 60	89													
204	後	130 × 50																		
61	22	城山	71地点	5	後	30 × 23	100													
62	20	泉水山下ノ原 (富士谷)		1	末初	120 × 70	105													
63	19	牛王山	2次	3	後	— × —	106													
				30	後	80 × 70														
64	16	菅原神社台地上		40	後	— × —	107													
				49	後	100 × 70														
				70	後	150 × 70														
				89	後	150 × 70														
				93	後	— × —														
				111	後	150 × 70														
				120	後	120 × 70														
				199	後	110 × 80														
				213	後	120 × 80														
				174①地点	566	末初							— × 59.9	101						
65	21	西原大塚	西原特定地区土地区画整理事業	38	末初	75 × 40	92													
				39	末初	195 × 60														
				40	末初	190 × 60														
				69	古	145 × 70														
				70	古	100 × 65														
				124	末初	100 × 65														
				138	古	130 × 50														
				260	末初	80 × 80以上														
				265	古	60 × 50														
				266	古	90 × 50														
				274	古	150 × 70														
				289	末初	150 × 71														
				291	末初	100 × 80														
				313	末初	120 × 35														
				322	末初	80 × 30														
				333	末初	40 × 30														
				335	末初	120 × 60														
				349	後	120 × 70														
				350	末初	75 × 40														
				355	後	90 × 50														
				395	後	80 × 60														
				413	末初	80 × 55														
				431	古	70 × 40														
				443	末初	120 × 50														
				445	古	110 × 60														
				448	末初	90 × 35														
				452	末初	(70) × 50														
				453	末初	105 × 50														
				460	古	130 × 45														
				466	古	130 × 80														
				468	末初	70 × 35														
				481	末初	170 × 70														
				482	古	120 × 40														
				492	古	90 × 50														
				500	末初	80 × 60														
				510	末初	90 × 50														
				535	古	60 × 60														
				108地点	538	後		80 × 35	98											
	539	後	90 × 40																	
110地点	33	末初	60 × 50	104																
	515	古	90 × 35																	
	518	末初	80 × 45																	
	520	古	50 × 20																	
120地点	527	末初	110 × 50	91																
	528	末初	110 × 51																	
131地点	530	末初	110 × 80	99																
159地点	558	古	50 × —																	
171地点	559	後	90 × 55	103																
	561	末初	100 × 30?																	
179地点	582	後	130 × 80	102																
	588	末初	120 × 70																	
	589	後	90 × 35																	

表1-2 遺構一覧(2)

番号	合・関	遺跡名	調査地点	遺構	時期	規模 (cm)	文献	番号	合・関	遺跡名	調査地点	遺構	時期	規模 (cm)	文献								
64	16	菅原神社台地上		222	後	120 × 90	107	76	2	道合		124	後	— × —	110								
				226	後	60 × —						128	後	110 × 50									
65	15	成増一丁目	1次	30	古	100 × 54	121	77	6	清水坂		1	後	100 × 80		126							
				Y 6 C	後	70 × 50						148	後	— × —									
66	9	西原		Y 13	後	100 × 58	122	78	4	七社神社裏	2-10-7	1	後	80 × 40	125								
				Y 14	後	50 × 35							149	後		— × —							
				B地点	7	後							160 × 70	113									
N地点	1	後	(50) × 30	118																			
67	10	志村坂上			19	後	45 × 38	119	79	3	御殿前	国立印刷局	2-3-15	後	50 × 50	152							
				27	後	180 × 70	3						後	80 × 45									
69	12	西台後藤田	1地点	Y 13	後	100 × 86	120	80	7	田端不動坂		20	古	70 × 44	124								
				Y 17	後	90 × 87						31	後	70 × 45									
				Y 20	後	90 × 88						40	後	100 × 85									
				Y 21	後	70 × 49						45	後	65 × 50									
				Y 24	後	90 × 65						46	後	58 × 28									
				Y 38	後	70 × 50						47	後	60 × 50									
				Y 43	後	110 × 90						48	後	60 × 40									
				Y 44	後	65 × 40						51	後	48 × 30									
				Y 49	後	60 × 48						57	後	60 × 25									
				Y 51	後	150 × 40						58	後	88 × 40									
				Y 52	後	160 × 70						10	後	100 × 60			149						
				Y 55	後	100 × 44						55	後	— × —									
70	13	四葉	J地区二・市	58	後	100 × 50	117	81	5	中里峡上	3-12-2	3-21	後	100 × 80			111						
				C地区1	1	後						— × —	3-17-18	1		末初		100 × 50					
71	14	四葉宮前		3	後	130 × 70	115	82	8	伝中・上富士前		N95	後	75 × 55		133							
				4	後	140 × 90						8	後	60 × 55									
72	26	稲荷台		2	後	150 × 60	148	75	1	赤羽台	国立王子病院跡地	2	後	150 × 110	134								
				8	後	— × —						3	後	160 × 85									
				11	後	125 × 85						8	後	235 × 85									
				12	後	200 × 100						16	後	130 × 120									
				13	後	110 × 26						17	後	60 × 45									
73	17	向原		14	後	70 × 70以上	116	83	81	落合	13次	1A	後	100 × 60		151							
				5	古	100 × 80						129	84	82			広町	14次	4	後	65 × 30		
75	1	赤羽台		2	後	60 × 42	127	85	83	遠藤山						10			後	55 × 40	131		
				6	後	120 × 61						27	後	75 × 35									
				11	後	100 × 60						28	後	100 × 80									
				14	後	110 × 60						49	後	50 × 40									
				15	後	120 × 75						58	後	69 × 55									
				18	後	190 × 100						65	後	86 × (84)									
				19	後	52 × 36						67	後	96 × 68									
				23	後	150 × 85						71	後	95 × 86									
				28	後	100 × 70						107	後	100 × 45									
				29	後	60 × 44						2	後	20 × 14	132								
				32	後	66 × (60)						3	後	— × —									
				34	後	170 × 80						9	後	44 × 24									
				36	末初	85 × 75						76	2	道合		2次	S118	後	100 × 90	136			
				37	後	189 × 174																2	後
				39A	後	60 × 50						54	後	40 × 40	110	88	86	土器塚	3次	7		後	— × —
				44A	後	80 × 55						56	後	(80) × 20						47	後	90 × 80	
				46	後	(120) × 50						57	後	70 × 45						48	後	— × —	
				49	後	90 × 40						61	後	120 × 80						49	後	66 × 45	
				51	後	(95) × 95						81	後	— × —						50	後	26 × 21	
				62A	後	45 × 32						86	後	— × —						51	後	— × —	
63	後	100 × 60	97	後	— × —	52	後	— × —															
72	後	140 × 137	98	後	40 × 40	57	後	— × —															
76	後	100 × 70	108	後	— × —	58	後	— × —															
85	後	70 × 70	115	後	— × —	89	87	騎兵山		16	後	100以上 × —	137										
4	後	60 × 60	122	後	50 × 30																		
76	2	道合		27	後	180 × —	110	89	87	騎兵山		16	後	100以上 × —						137			
				32	後	50 × 40																	
76	2	道合		34	後	41 × 30	110	89	87	騎兵山		16	後	100以上 × —	137								
				49	後	(50) × 28																	
				52	後	40 × 40																	
				54	後	40 × 40																	
				56	後	(80) × 20																	
				57	後	70 × 45																	
				61	後	120 × 80																	
				81	後	— × —																	
				86	後	— × —																	
				97	後	— × —																	
				98	後	40 × 40																	
				108	後	— × —																	
115	後	— × —																					
122	後	50 × 30																					

表1-3 遺構一覽(3)

番号	合・関	遺跡名	調査地点	遺構	時期	規模 (cm)	文献	番号	合・関	遺跡名	調査地点	遺構	時期	規模 (cm)	文献			
89	87	騎兵山		23	後	55 × 27	137					184	古	240 × 80				
				6	後	240 × 100						186	古	180 × 80				
				7	後	180 × 60						188	古	120 × 120				
90	88	鶯谷		10	後	55 × 30	150					196	古	140 × 60				
				16	後	90 × 50						197	古	30 × 20				
				21	後	190 × 80						200	古	100 × 60				
91	89	氷川		15	後	— × —	112					15	末初	35 × 35				
V 多摩川上流域																		
			4	15	末初	40 × 30						16	末初	— × —				
				20	末初	50 × 30						76	古	140 × 120				
92	90	宇津木向原		1	末初	40 × 25	153					78	古	100 × 70				
			6	2	末初	80 × 50						81新	古	150 × 70				
				8	末初	60 × 30						86	古	70 × 60				
				3	古	180 × 60						87新	古	150 × 110				
				6	古	100 × 60						12	末初	65 × 65	109			
				6	古	100 × 60						4	古	80 × 80	158			
				7	古	90 × 60						9	末初	— × —				
				8	古	220 × 100						45	末初	84 × 120				
				9	古	80 × 50						47	末初	252 × 114	157			
				13	古	80 × 40						51	末初	— × —				
				16	古	80 × 60						VI 多摩川中流域						
				21	古	120 × 50						13・14次	43(H5) H16	古	370 × 250	138		
				30	古	180 × 100						1	19b	古	— × —	139		
				31	古	60 × 40						32次	140	古	90 × 65	141		
				31	古	130 × 70						50次	226	古	140 × 60	142		
				32	古	160 × 100						1次	35	古	50 × 40	140		
				37	古	110 × 70						VII 多摩川下流域						
				49	古	90 × 60							Y1	後	70 × 45			
				50	古	90 × 60							Y9	後	30 × 20	143		
				58	古	100 × 90							Y15	後	— × —			
				61	古	90 × 40						VIII 鶴見川中流域						
				63	古	80 × 50							Y43	中	60 × 40			
				71	古	120 × 90							Y48a	中	110 × 30	162		
				73	古	200 × 150							Y51a	中	— × —	163		
				74	古	— × —							Y67a	中	52 × 45			
				78	古	140 × 100						IX 相模						
				79	古	160 × 70								37	古	約100 × 90	160	
				80	古	90 × 90								200	古	70 × 60	161	
				82	古	100 × 90								Y95A	古	35 × 25	159	
				82	古	130 × 90								YK118A	古	180 × 170	169	
				86	古	110 × 70								8 C区	1099	後	40 × 15	164
				87	古	120 × 60								30A・D区	18	古	100 × 20	165
				92	古	120 × 40								36B区	1014	古	100 × 90	
				98	古	90 × 60								34A・D区	1047	後	80 × 40	
				102	古	55 × 35								44区	159	後	90 × 50	166
				105	古	140 × 80								35B・D区	100	古	220 × 150	
				108	古	120 × 55								52A区	012a	後	40 × 25	167
				115	古	160 × 110								24	後	160 × 90	168	
				124	古	130 × 80								X 三浦半島				
				128	古	90 × 45									Y2A	後	— × —	
				133	古	150 × 50									Y154A	後	52 × 35	
				136	古	120 × 90									Y198	後	100 × 55	
				137	古	110 × 70									Y208A	末初	75 × 40	
				138	古	200 × 90									Y288B	末初	100 × 50	
				139	古	160 × 60									Y232A	末初	85 × 60	
				156	古	60 × 40									Y242A	後	60 × 25	
				163	古	320 × 120									Y286	後	40 × 35	
				164	古	160 × 70												
				166	古	170 × 70												
				168	古	200 × 110												
				173	古	140 × 120												
				174	古	110 × 80	155											

表1-4 遺構一覧(4)

集中する地域、一方後1遺跡はそれが現状では全く見出されていない地域という対照的な立地である点は注意を引く。もともと地域Ⅱは、後期前半の様相が明らかでなく、遺跡分布は同期後半とは対照的に元来ごく希薄とみられている。そのため祭壇状遺構が中期から発展的に継承され、類例を増したとは即断できない。

3 形状

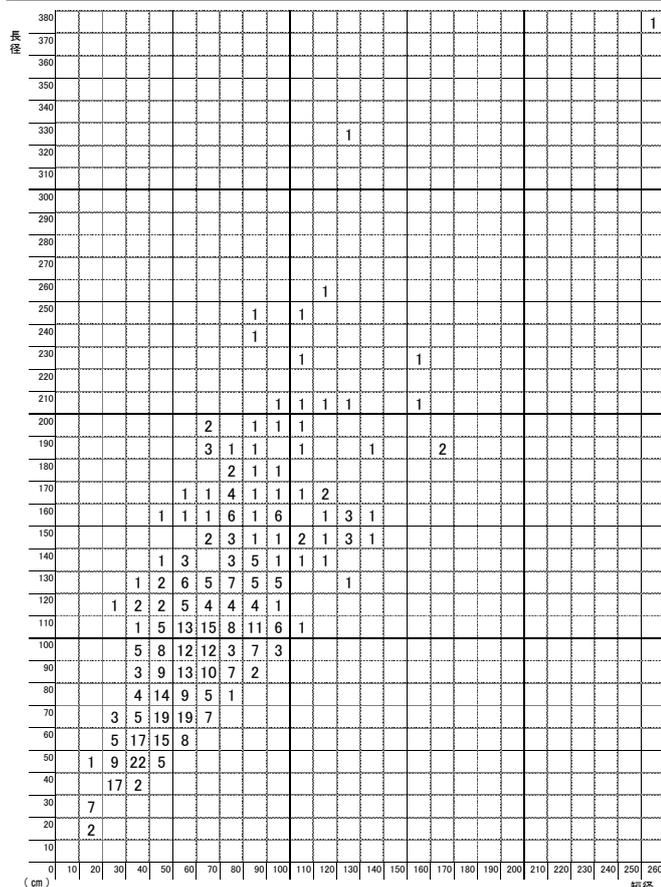
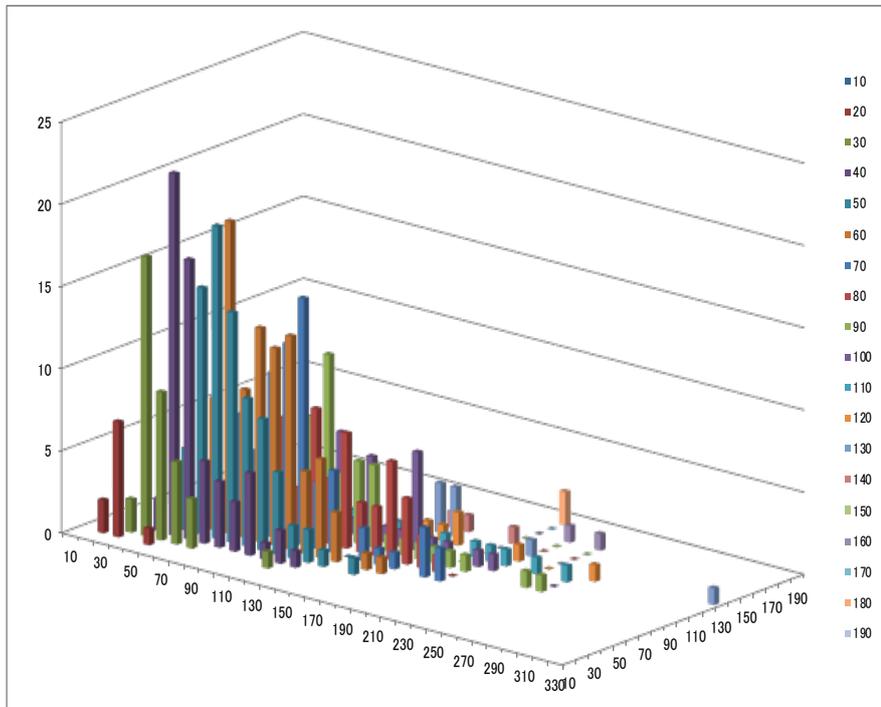
(1) 平面構造 祭壇状遺構は、住居出入口想定部脇のエリアC（拙論（1）・（2））⁽⁵⁾に見いだされる場合が大多数である。この傾向は、汎南関東レベルでも変わらない。壁面に密着するものとそうでないものがあり、前者の多くは、エリアCコーナー部から奥に連なるエリアB寄りの壁面に位置している。後者の場合、同エリア内に貯蔵穴あるいはそれに付随する土堤

の存在を意識するかのように、そこに接するあるいは重複するものがある。

平面形は、一見大小を含め一定せず、壁に接すれば半円・台形、舌状、離れば円・楕円形など類型化が難しい。このため「長軸長×短軸長」という単純化された法量表示がなじまない場合もままある。しかし集成から見えてくるものがあればと、かつて拙論（1）でもそれに倣い一覧を作成したが、「平面規模は、径10～150cm以上にわたり、ばらつき

が大きい、概ね50～100センチが分布の中心となるようだ」（2頁）と述べるにとどまった。合田・関森論考も平面規模の処理は同様であり、その結果を「平面的には壁に沿って大略100×50～60cm前後四方の範囲にまとまるものが多く、覆土中に広く飛散しない。」とまとめている（合田・関森：23頁）。どちらも、長径100cm付近に主体的分布域の上限を認めている。汎南関東レベルの状況について、表1に基づきあえて遺構単位で図示すると以下ようになる（第3図）。

- ① 50×40cm（台）付近をピークとし、30×20cmから100×60cmにかけて濃密な分布を示す
- ② 大型化するにつれて漸減し、170×100cmを越えると210×140cm付近まで薄い分布となる
- ③ より大規模なものは、分散的な傾向を示



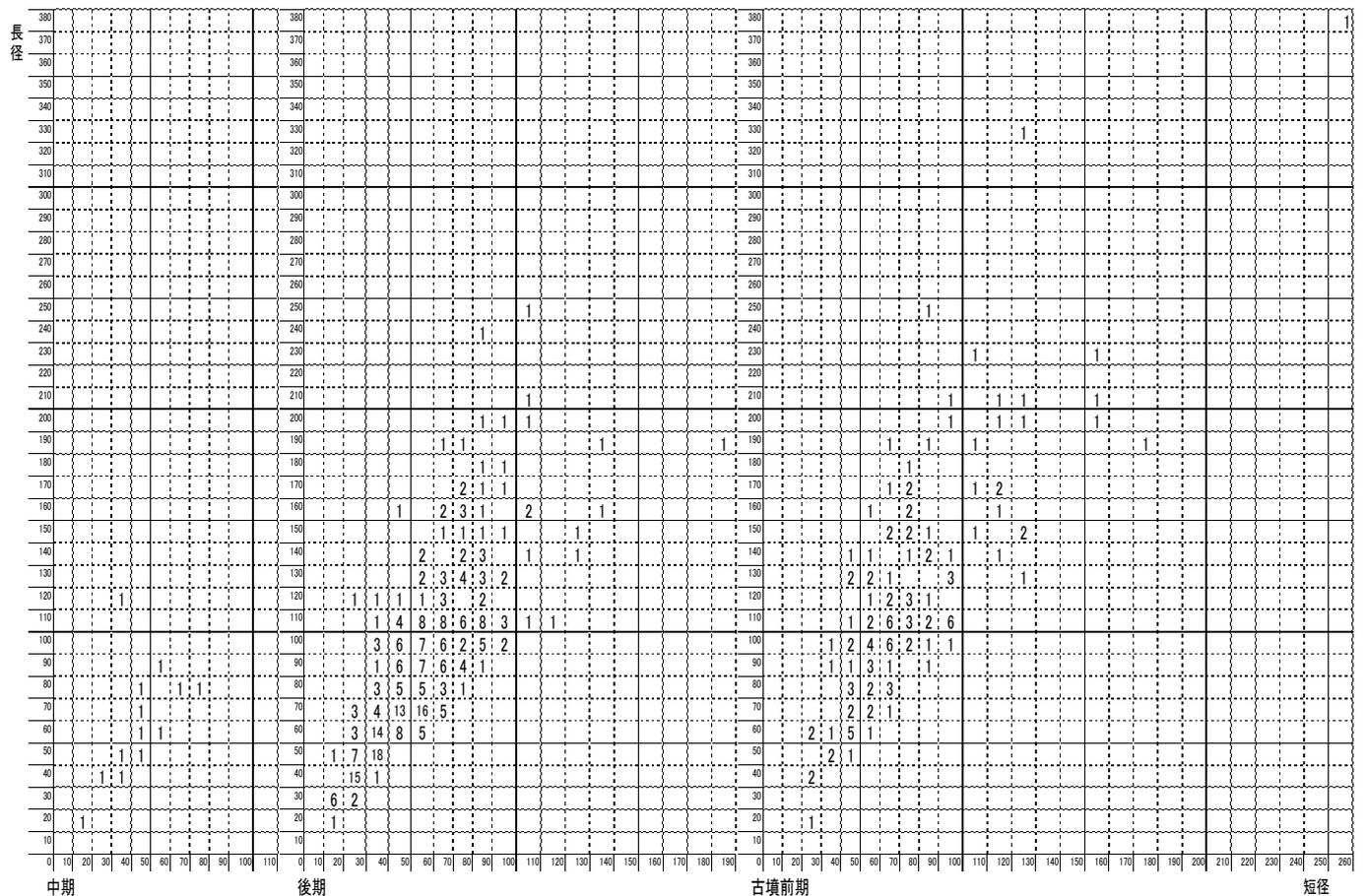
第3図 祭壇状遺構の平面規模（下図数字は遺構件数）

すが、長径 300cmを越えるものも例外的に存在する

長径 100cm付近を境に、遺構が相対的に小規模なエリアでは分布が高密度な部分が稜線状に連なり、一方それが大規模なエリアでは分布が平坦に広がるという傾向の違いが認められる。

図3を中期後半（13件）、後期（298件）、古墳時代前期（131件）の3時期にわけて傾向を比較する⁽⁶⁾

- ① 3者とも、分布の主体は先に見た全期的状況に一致する（長径約 100cm以下）
- ② 中期は、件数がごく少ないが、長径 100cm以下がほとんどであり、①とした分布圏がほぼ全体にあっている
- ③ 後期は、件数が圧倒的に多く、総体的傾向の基調を形成している。言い換えれば前掲したそれに近似している
- ④ 古墳時代前期は、後期に比べ件数が少ないが、長径 150cmを越える件数は後期に近似し、大型例の占める割合が高い。ただし神谷原遺跡例が約 40%を占めており、それが時期的傾向を反映しているか、むしろ遺跡特有であるかは注意を要するだろう。大型例では当遺跡の占める割合が特に高い



第4図 平面規模の時期別分布

(2) 立体構造

立面形には、「堆積」・「盛られた」（以下「積む・盛る」）など厚みが認められるものと、「散布」・「敷かれた」（同「撒く・敷く」）などそれを感じさせない対照的な二者がある。無論、実態としてはどちらとも形容しがたい場合もあるだろう。拙論では（1）以来、両者ともに「祭壇状遺構」として一括している。

ところで小倉は、この「祭壇状遺構」を提唱するにあたり、立面構造について5類型を挙げている（小倉1990：109頁）⁽⁷⁾。簡潔にまとめれば、①床面に直に積み上げる、②床面との間に間層を挟んで積み上げる、③土壇を設けた上に積み上げる、④窪みの中に積み上げる、⑤祭壇中心部分に小礫・砂質土層が核状に含まれる、となるだろう。①～④は下部構造、⑤は内部構造に関わっている。一方、構成材の粘性により可塑性はさまざまであろうことを前提に、類型化にあたり「遺構を構成する場合には」と前置きしており（前掲註7参照）、同じ素材でも検出時に遺構（＝壇）の体をなしていない存在も視野に入れているようだ。

ほぼ同時に、渡辺正人はさいたま市B-7遺跡の調査成果を踏まえ、その報文において小倉の説に異を唱えた（文57：50・51頁）。要点は、①実見した限り構成材は散布状況にあり壇状施設を想定するのは無理、②小礫(a)は赤い粘質土(b)と砂(c)と組み合わせられるというが、実際にはa+b、a+c、a+b+cの三者があり同一視できるかは要検討、そして③構成材である砂、小礫が炉から出土しており、炉との関連も要検討ということだろう。ここで注目しておきたいのは、小倉が「積む・盛る」ことによる壇状施設形成に焦点を当てたのに対し、渡辺は「散布」に注目し、それに対して祭祀としての意義づけを試みている点である⁽⁸⁾。

細かな経緯ではあるが、対照的な形態の二者が同時期に祭祀遺構として注目された点、炉との関連が初期段階で注意されている点など学史として興味深い。

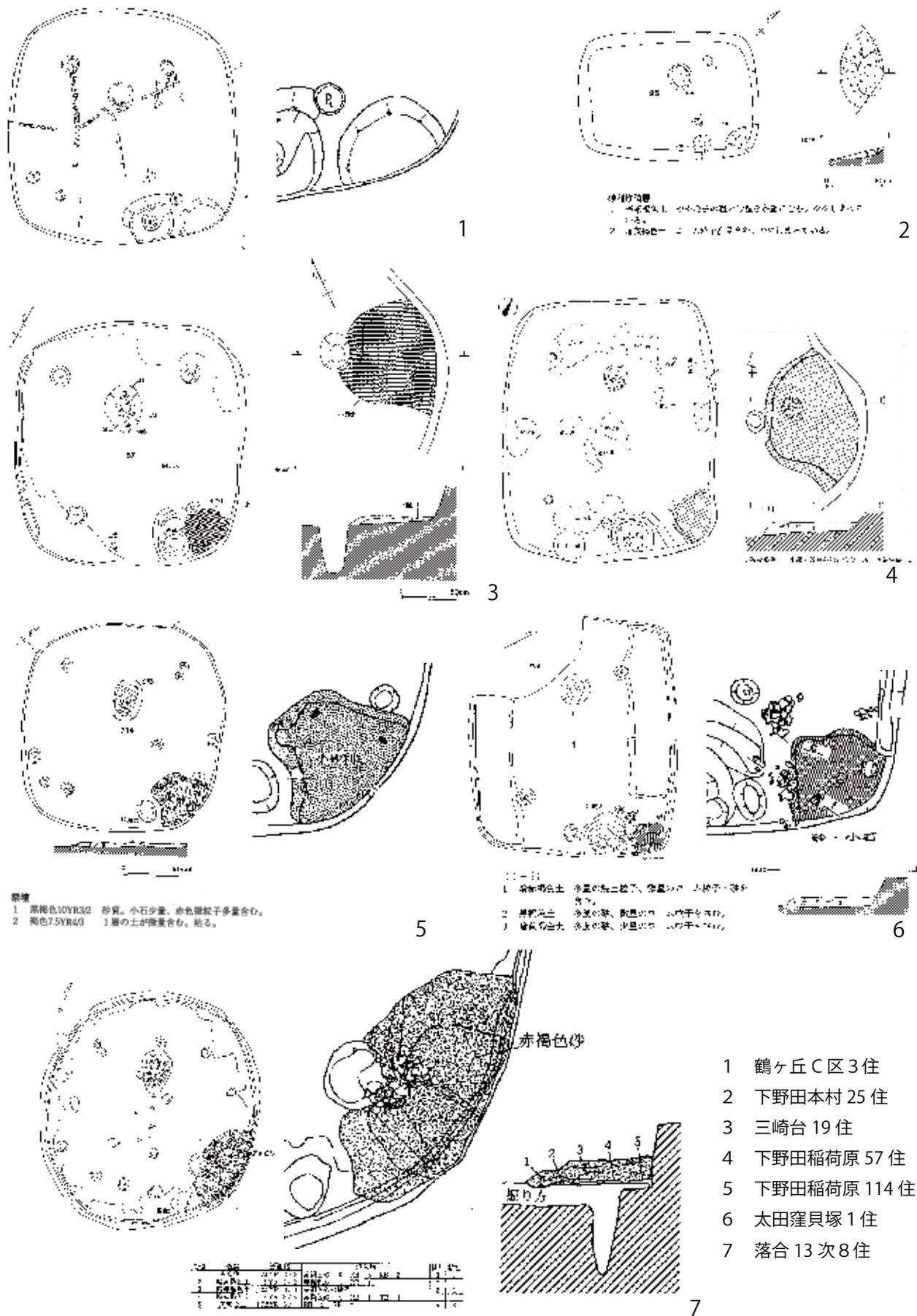
合田・関森論考・拙論（1）付表を参照すると、厚みの数値は10cmに満たない、分けても5cm以下が主体なようだが、そもそも数値の知られる遺構自体が多くない。面的な広がりは図示されながら厚みについて報告がないのは、端的に言えば数値化を要しないとみなされるほど薄く感じられたものが多いことを物語る。遺物として報告されている場合もあり、遺構としての構造的関心は共有されてこなかったのだろう。今後そのデータの集積が望まれるところである。

4 祭壇状遺構の具体像

実例に基づきその具体像に触れてみたい。報告された実測図の多くは、その平面形を線引きあるいはスクリーンで示すのみだが、上下端部を図化し、土層断面図が組み合わせられた報告例がある（第5図）。いずれも構成材の粘度、硬度（しまり具合）が指摘されており、元来の形状の保持がある程度期待できる。もっとも上端線をどう求めるかは考え次第で、明確な厚みがあっても上部に平坦面が認識できなければあえて表現しない選択は当然あり得るだろうから、読図には注意を要する。

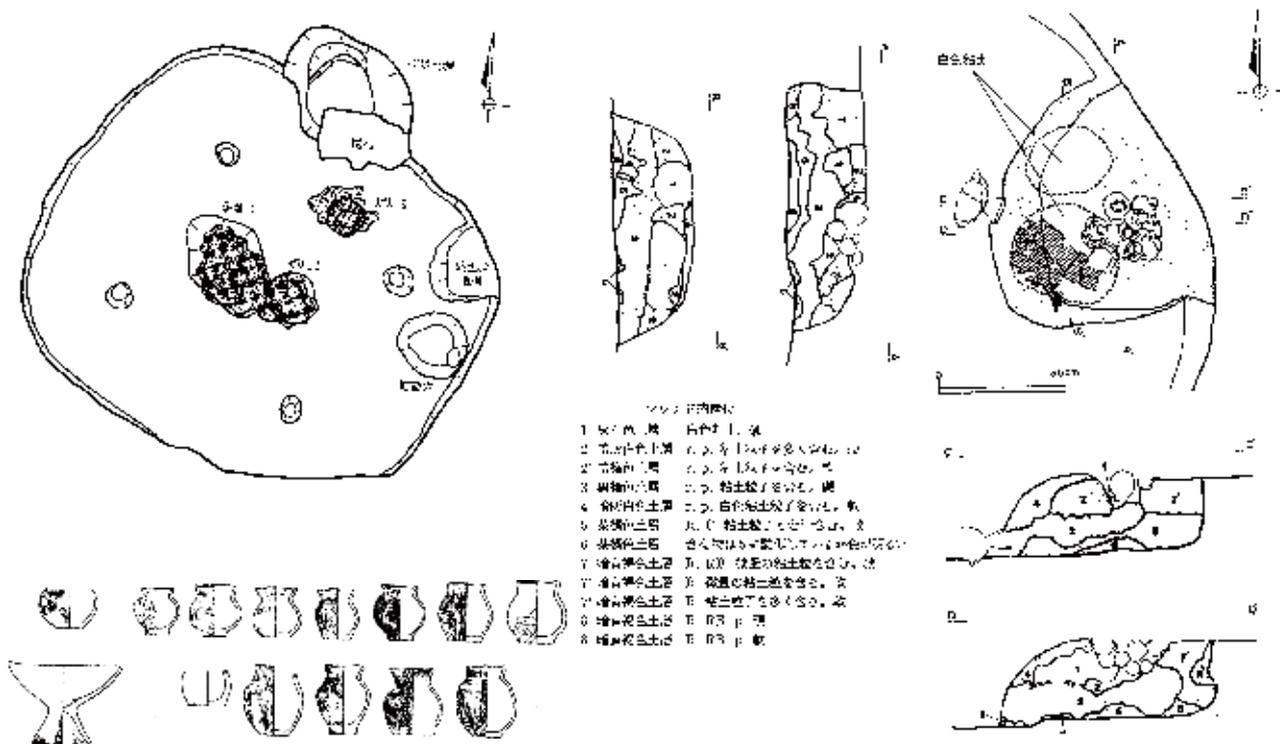
具体例については拙論（1）でも取り上げており、ここで逐一述べることは控えるが、そこで触れなかった川越市鶴ヶ丘遺跡（57、第5図1）の「台状遺構」に注目しておきたい。

報告された12例の特徴として、①床面以上に固く締まっていること、②立体形を持つものは⁽⁹⁾、黒褐色土など床とは異なる構成材が用いられていること、そして③上面が住居内部に向かって傾斜する点がある。高さは10cm以下である。砂、小砂利については、C区11住で表面



第5図 祭壇状遺構の諸例

縮尺 住居全体図 1 : 150
遺構詳細図 1 : 50



第6図 中宮遺跡5住の「粘土塊を伴う盛土状の遺構」 縮尺 住居全体図 1：100
 ※平面図の粘土塊輪郭を示す点線は、引用にあたり加筆した 遺構詳細図 1：30

に砂粒の散乱、F区12住で砂利のわずかな散布が報告されるのみだが、さらに上部構造があった可能性はあるだろう。小倉分類③にあたる。①からは、遺構の少なくとも下部構造の原形が保持されている点と、住居と一体化した恒常的な施設であったことを認めたい。その平面規模は、図3が示す祭壇状遺構の一般形に一致しており、祭壇状遺構の本来的あり方をうかがわせる。③の意図は何か。今後類例の増加に向けて注意されるべき点である。

祭壇状遺構の原形を良好に示す例として練馬区中宮遺跡(74)5住に注目したい(文129、第6図)。報文では、遺構を「粘土塊を伴う盛土状の遺構」と呼び、性格づけについては慎重が期されているが、精密な報告から構造の詳細を知ることができる。平面形は前出の諸例とほぼ同規模だが、現存高約30cmで、上部まで良好に遺存していたとみられる。最下層の一つ黒色土層(3層：床から高10～15cm)上面に破碎された台付甕を敷き、その上に白色粘土塊(30×15cm)2つを置き、粘土粒子を多く含む2層土で覆う。最上面中央のくぼみに落ち込むように小型壺12個体が置かれる。3層は硬く、上面が土器敷であることから、基壇部あるいは器物を載せる台部と見ることができる。台部を持つ点は、小倉分類③に共通する特徴である。粘土塊はそのまとまりから単なる構成材の混ぜ込みとはいえず、報告者も「粘土のもつ有用性の背後に存在するある種の呪術的要素」の可能性に言及している(同前：75頁)。小型壺は、時に複数個体が顕著な集合状態で出土することが知られており、本例もその特徴を如実に示している。祭壇状遺構との確実な接点が見いだされたことは、両者の性格を考えるうえで重要な手がかりを提供しているといえるだろう。

台部をつくりその上に砂、小砂利を盛った例として、上尾市稲荷台遺跡(1)51住がある。

「貯蔵穴～東隅間の床面の小礫集中部分の状況が明瞭に検出された。約 70cm× 50cmの楕円形の範囲に、3～4 cm程度の高さでロームブロック混じりの暗褐色土を盛り、更にその上を直径1～3 cm程度の多量（総量 432 g）の小礫で覆うもので、室内祭祀等との関連も考えられた。」（文 3：99 頁）

「積む・盛る」系祭壇状遺構は、これら台部を持つ複層構造のもの（小倉分類②・③）と、多数派とされる床面直積みの単層構造のもの（小倉分類①）からなる。「撒く・敷く」系祭壇状遺構は、一覧表で厚みの数値が知られない遺構がそれにあたるなら、全体に高い割合を占めることになる。しかし「積む・盛る」系の単層構造祭壇が崩壊した結果がそこに含まれるとすれば、机上での分別は不可能だろう。「撒く・敷く」系祭壇状遺構を積極的に評価しようとするなら、浅い窪みの中に敷きつめるなどの特徴を持つ遺構を類型化して見出していく必要があるだろう。

一方で近年、発掘調査時点での観察と所見によって、祭壇状遺構の動態が明らかにされつつある。飯塚武司による北区道合遺跡（76）の分析では、22 軒（出土住居数の 14%）の検出例中、貯蔵穴周辺に見出された 13 件（不明瞭な 3 件除く）では、「土器や袋などを用いて蒔いた様な状態の出土例が圧倒的多数を占めており、保管されていた「赤砂」の容量が一定であった可能性が示唆される。」（文 110:384～385 頁）とする。必要な一定量を容器に保管しておき、後章で改めて触れるが、ある時点でそこから決められた場所に撒く、「撒く・敷く」系祭壇状遺構の形成事情に言及した好例といえる。

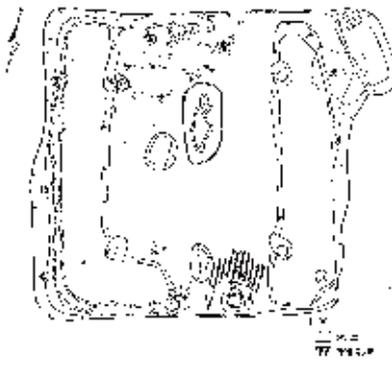
この対極的な二者について、形状を性格に置き換えて比較すると、端的には「恒常性」対「臨時性」という、やはり対立的な要素が見えてくる。単純化が性急に過ぎるかもしれないが、これは、祭壇状遺構としての両者の分別と意義づけにおいて、重要な要素と思える。

4 礫敷遺構

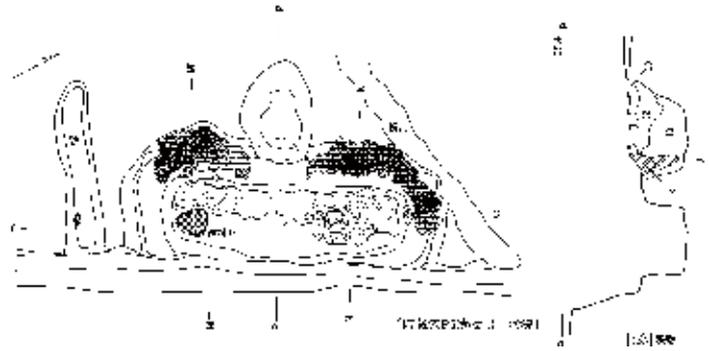
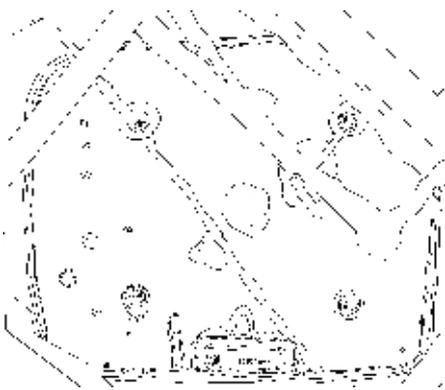
構造上は「撒く・敷く」系祭壇状遺構に分類されるが、大ぶりの礫を貯蔵穴に接して敷きつめた一群を「礫敷遺構」⁽¹⁰⁾とする（第 7・8 図）。Ⅱ地域では例がなく、拙論でもこれまで触れたことがなかったが、他の各地に文字通り点々と見出されており、合田・関森論考では 9 遺跡が挙げられる（25 頁）⁽¹¹⁾。方形基調の貯蔵穴と構造上一体的に、破碎礫あるいは砂利を敷きつめる、主に古墳時代前期に属するなどが共通点である。

世田谷区堂ヶ谷戸遺跡（99）43 住〔第 13・14 次調査 H 5 住〕（文 138・第 6 図 3）は、奥行 13.2 m、幅 12.2 mの超大型住居である。詳細が不明なため、形状が似た特徴を示す次出の目黒区氷川遺跡（91）15 住を参考に記述すると、壁面に沿う長方形の貯蔵穴は住居中軸線上で出入口ピットと並び、両者を一体的に囲む掘り込みの三方に「砂利」（報文）が敷かれている⁽¹²⁾。貯蔵穴は外縁で長軸（幅）1.7 m、それを囲む礫敷の長軸は 3.5 mに及び、今回扱う最大例となっている。

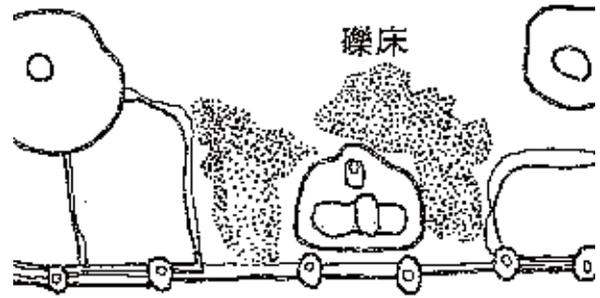
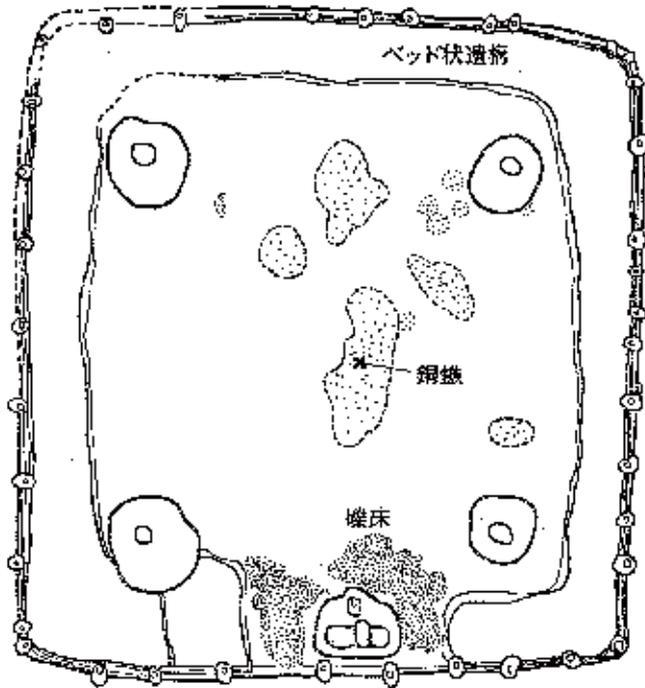
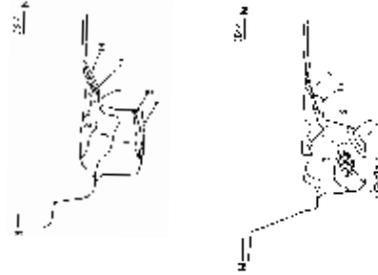
氷川遺跡 15 住（文 112・第 6 図 2）は、前掲の通り堂ヶ谷戸遺跡 43 住と類似点が認められる。住居は、奥行 8.3 m、幅 6.9 mでやはり大型に属する。貯蔵穴外周のうち住居壁面側を除く三方に深さ約 10cmの掘り込みを巡らせる。壁面に対する住居奥側掘り込み上面に礫が敷かれている。外縁の長径は 2.1 m、礫の構成は砂岩とチャートが半ばである。掘り込み内に整然と敷かれている点で、貯蔵穴とより一体的に見える。出入口ピット正面、梯子等昇降施設直下に当た



1



2



3

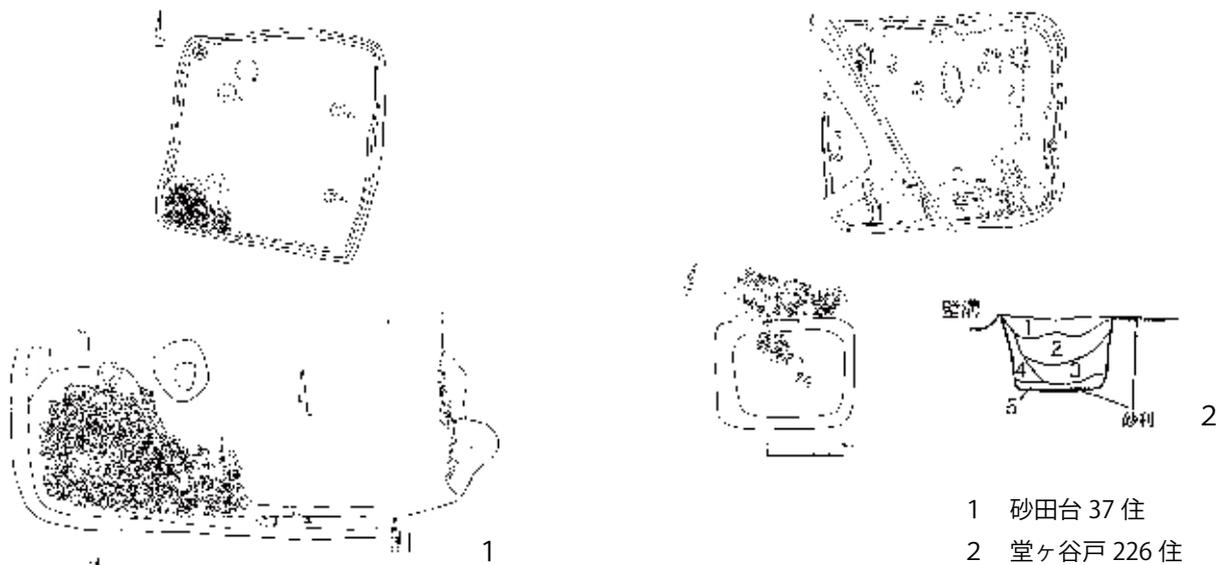
- 1 泉水山・下ノ原VI 1住
- 2 氷川2住
- 3 堂ヶ谷戸5住

縮尺 住居全体図 1 : 150

遺構詳細図 1 : 50

※ 3のみ詳細図 1 : 100

第7図 礫敷遺構(1)



1 砂田台 37 住
2 堂ヶ谷戸 226 住

縮尺 住居全体図 1 : 150

遺構詳細図 1 : 50

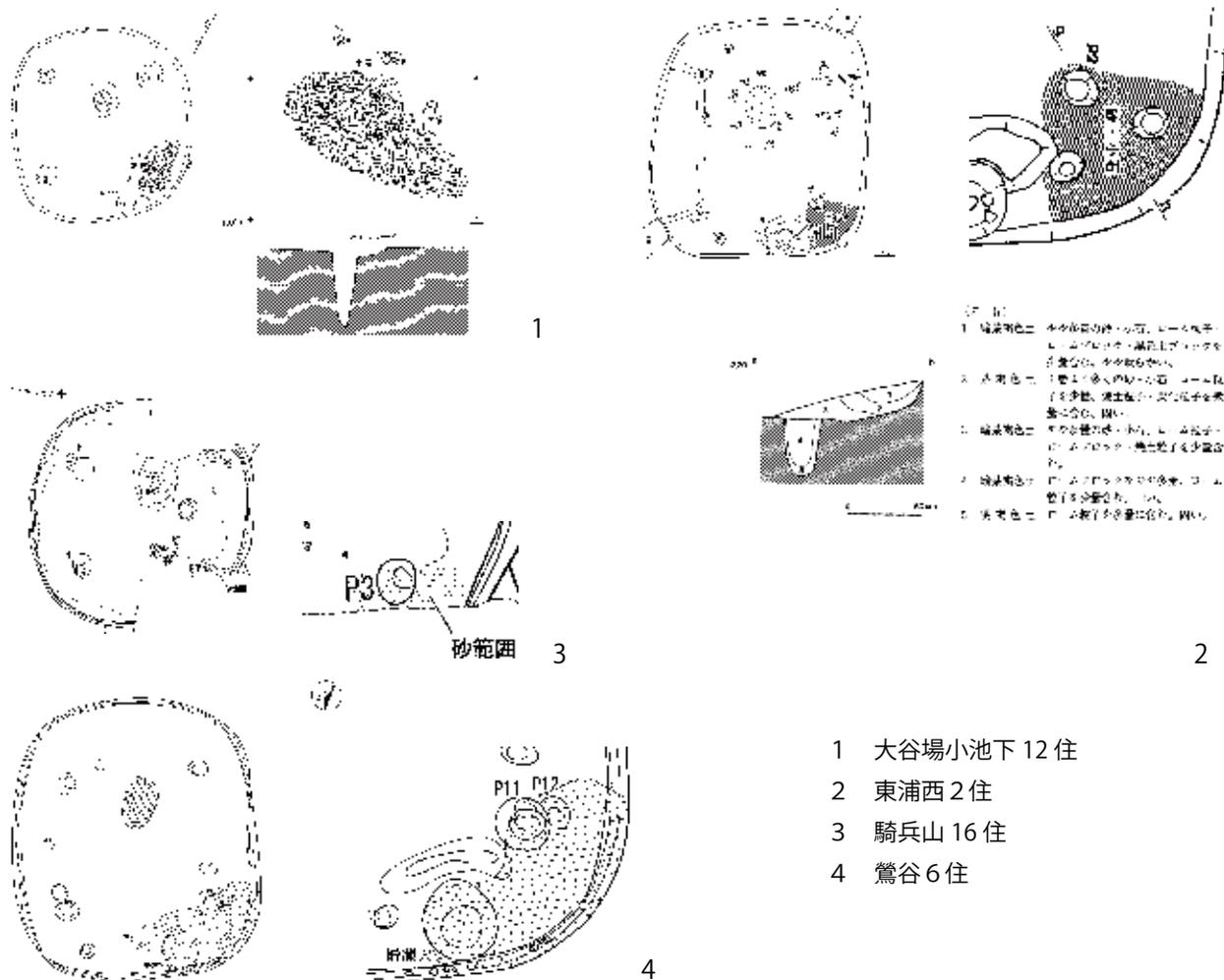
第 8 図 礫敷遺構 (2)

る部分は空白であり、堂ヶ谷戸例同様中軸線を挟み二分されている。貯蔵穴底部近くに礫敷からの崩落礫層（6層）があることから、礫敷付設時には貯蔵穴は開口しており、その後埋め立てられたとみられる。崩落礫の総量からみて、礫敷は本来、浅い掘り込み全面に床面と同レベルで敷かれていた可能性が指摘されている。

朝霞市泉水山・下ノ原遺跡（62）1住（第7図1）と堂ヶ谷戸遺跡226住（第8図2）は、貯蔵穴が住居中軸線からエリアC側にややそれ、方形である点、礫敷が貯蔵穴外縁に接し住居奥側にやや幅広に付設されている点で共通する。堂ヶ谷戸例は、やはり貯蔵穴底部に崩落礫層があり、礫敷付設時の開口が認められる。一方泉水山・下ノ原例では貯蔵穴（報文では「土坑」）覆土内・上面に礫はわずかしか認められなかったとされているが、貯蔵穴埋没との時間的關係には言及されていない。また礫の赤化が顕著とされている点は、他例と異なる特徴である。

礫敷のあり方が以上と対象的なのが、平塚市砂田台遺跡（103、第8図1）である。ここでは埋め立てられた貯蔵穴の上面を、礫敷がその上端の輪郭を意識するように蓋状に覆っている。貯蔵穴はコーナー部に密着するが、炉が検出されていないため、住居内のどの区分エリアにあたるかは確定できない。谷口肇は、この状況について「貯蔵穴を『つぶす』際の儀礼的な行為であるかも知れない」としつつも、当遺跡において「小礫はなくても貯蔵穴周辺が祭祀的に利用された空間である可能性が高い。そのような現象の萌芽は本遺跡の宮ノ台式期にもコーナーに土器を埋設したピットを設けるなど、コーナーを特別視する行為となって既に表れている」とし、貯蔵穴に関連しつつも対象がそれに収斂されない、より普遍的な祭祀行為との関連を重視していることがうかがえる。なお礫敷を構成する「小礫」は凝灰岩を主体とし、「見た目にごツゴツしたやや汚らしいものである」点、南関東の分布域では対極に位置する地域Ⅱとの相違を指摘しつつも、両者の関連には注意が払われている（文161：473頁）。

祭壇状遺構は、弥生～古墳時代にかけて概ね連続的な様相を呈してきたように見えるが、これら「礫敷遺構」について、より規格性がうかがえる古墳時代の新たな系統として注目したい。



第9図 柱穴と祭壇状遺構の重複関係

5 住居廃棄の儀礼

これまで、拙論において祭壇状遺構は、「住生活における祭祀行為を示す遺構」(拙論(1):1頁)である。そこで言う「住生活」は、言うまでもなく竪穴住居における日常生活であり、屋内祭祀はその一部としての活動というイメージである。それが住居の属する集落の祭祀に連なるといふ、住居内外を繋ぐ、生活の中の共同体規制の構造を拙論(2)で模索しようとした。拙論(3)では再び住居内にもどり、土層断面の検討を含め貯蔵穴の動態を探ったが、そこには住居の施設として穴が掘り込まれた、そしてある段階で埋め戻された、いや住居廃絶時まで開口していた、という単層的・単線的な動態ではなく、掘り返し、重複等、重層的な痕跡が見いだされた。そこに「貯蔵穴」の実態が、その名では括り切れない、複雑な状況が垣間見えた(拙論(3):10頁)。

祭壇状遺構についても、住居跡内にありながら、これまで筆者が扱ってきた住生活空間とは時限を異にするあり方が、発掘調査から見出されつつある。本章では、その一つである住居廃絶儀礼における祭壇状遺構について見ていきたい。祭壇状遺構の呼称は、個々の引用文に応じて「赤砂」等と記す。

北区田端不動坂遺跡（80）第 17 地点の成果を分析した新井悟は、20・31 号住等の状況から、以下の通り「赤砂」、「小石」の付設を住居の廃絶行為の一環と位置付けている（文 124：30・31・237・238 頁）。

31 住では、「床面直上に置かれた赤砂の一部が、埋められたと考えられる貯蔵穴の上に直接の様子を確認されている。」ことから、**住居の廃絶—床面露出段階での貯蔵穴の埋め立て—赤砂の設置**という過程が想定されている。

20 住は火災住居だが、炉には赤い小石が敷かれ、その直上に破碎土器を重ねて使用停止が象徴化されている。一方貯蔵穴は自然堆積により半ば埋もれた状況にあり、火災を示す炭化材・焼土は、床面ともども両者を直接覆うように堆積している。貯蔵穴の覆土堆積に住居廃絶からの経過時間を見込み、炭化物・焼土は居住時の被災ではなく住居廃絶に伴う焼却の結果とされる。この状況から、**住居の廃絶—貯蔵穴埋没の開始・赤い小石で炉を埋め殺す儀礼—住居部材の焼却**という短時間のプロセスが復原されている。

31・20 住における行為が「それぞれ住居廃絶時点の出来事と考えるなら、赤砂を置くという方法は、住居の廃絶に伴う儀礼である可能性が高いと考えられる。」（同前：238 頁）

同じく火災住居の 48 住では、貯蔵穴底部近くに炭化材の堆積が認められ（同前：第 106 図）、やはり炭化材・焼土堆積時にはほぼ開口状態にあったとみられる。赤砂との重複関係はない。

また 40 住も火災住居とみられるが、その痕跡が明瞭でない。ここでは支柱穴（P 2）を赤砂が覆っており、「赤砂が床面と P 2 の検出面直上に被っていることが観察された。」とされる。**住居廃絶—柱抜き取り—柱穴埋没（埋め立てか）—赤砂設置の一連の経過**が認められる。

前出の道合遺跡では、調査成果から『赤砂』を蒔く行為が、田端不動坂遺跡第 17 地点の報告でしめされたように、住居の廃絶に伴う儀礼であった可能性が高い」とし、続けて「本遺跡では、竪穴住居の廃絶に伴い、屋根を取り除き、柱材・梁材・桁材・梯子などの次の住居への転用可能な材を抜き取るなどの解体が進み、貯蔵穴や支柱穴の埋め戻しが進んだ段階で『赤砂』が蒔かれており、廃絶に伴う儀礼の後、廃材を燃やすなどの行為を経て、竪穴住居跡の全体の埋め戻しが行われるという時間の経過が復元される」と具体的なプロセスが示されてる（文 110：386 頁）。

同遺跡 22 軒の赤砂検出例について、上記を含め層位的な状況を事例ごとにまとめる。

- ・埋め戻した貯蔵穴上面に被る、貯蔵穴覆土最上層に顕著に混ざることから、貯蔵穴の埋没が先行する：13・32・34・49・52・109 住
- ・貯蔵穴最下層に多く含まれる：115 住
- ・赤色砂質土のまとまりに含まれるのと同質の小砂礫が炉跡堆積土中に混ざる：52 住
- ・住居覆土中・上層に含まれる：97・124・148・149 住

祭壇状遺構との層位的関係が認められる住居内施設には、①貯蔵穴、②炉、③支柱穴がある。①に関連して貯蔵穴周辺の土堤、また貯蔵穴以外のピットが祭壇状遺構の直下に認められる場合もあるが、以下①～③について触れていきたい。

①**貯蔵穴**：上記 2 遺跡の分析では、貯蔵穴の埋め立ては住居廃絶における儀礼として位置づけられている。その前提として、貯蔵穴は住居使用時には開口していた。

ところで小倉は、貯蔵穴について、「住居埋没以前に埋没していた」・「床下収納庫的なもので

はなく祭祀のためのピット」とみた（小倉 1990・120 頁）。筆者はそれを「実用的な貯蔵機能とは無縁な、『埋め立てられてこそ』のピット」（拙論 1、7 頁）と想定し、拙論（3）で実態の検討を試みた。その結果が予想以上に動的な様相を呈していたことは先述のとおりである。この二説は、居住生活時の貯蔵穴に「開口型」と「閉塞型」という異なる姿を与えている。前者は、【居住時】開口型貯蔵穴－【廃絶時】閉塞型貯蔵穴＋祭壇状遺構だが、後者は【居住時】閉塞型貯蔵穴＋祭壇状遺構を想定しており、祭壇状遺構設置の時間的ズレはその性格に関わる。

しかし二説は、概念上切り分けて理解できても、調査事例をいずれと判断するかは、報告書に明確な所見が掲げられていない限り難題である。前者では後者が説く居住時の埋め立てではないことが前提であり、一方後者では、火災住居の貯蔵穴覆土に焼土が混ざらないことが論拠であるなら、火災痕跡は前者の言う住居廃絶に伴う廃材焼却ではなく居住時の被災である必要がある。ところで二次的変化の痕跡が砂礫に比べ明瞭な礫敷遺構の場合では、氷川遺跡 2 住（第 7 図 2）、堂ヶ谷戸 226 住（第 8 図 2）で礫の敷設が貯蔵穴開口時である一方、砂田台 37 住（同図 1）では埋め立て後であることは明らかである。前者は、直接的には二説のどちらにもあたらない。

そもそも全体的状況は二説いずれかでは説明しきれないし、論者にその意図はなかったろう。開口時に祭壇状（礫敷）遺構を設置する第三の場合もあり、貯蔵穴が事後埋め立てられたか、開口したまま埋没した（前掲田端不動坂遺跡 20 住はこれにあたる）かによりそれはさらに細分される。これら複数の在り方が併存する状況が実態とみておきたい。両者が離れている場合は別として、単純でない貯蔵穴の実態は、祭壇状遺構の意味付けを左右すると言えるだろう。

②**支柱穴**：支柱を抜き取り、柱穴を埋めそれを覆うように祭壇状遺構を設ける行為は、居住生活時には想定し難く、住居廃絶のプロセスに位置づけねばならず、その儀礼としては貯蔵穴の埋め立て以上に確実な存在といえるだろう。かつて大宮台地の資料に当たっていた際、平面図上で支柱穴との重複を疑わせる例があった。しかしデータが十分とは思われず断定を見送った。祭壇状遺構に居住時の祭祀を想定していた筆者にとっては、むしろ持論と矛盾する存在でもあった。

改めて探索すると、確実な事例は散見される。目黒区騎兵山遺跡（89）16 住では砂が「床面に密着して堆積しており、（略）P 3（柱穴）の上を完全に覆っていた。このことから柱が抜き取られた後に砂が置かれた」とされている（第 9 図 3）。早い時期の確実な報告例として、鶴ヶ丘遺跡 F 区 11 号住では、エリア C に接する支柱穴に、同じく円形の蓋をするかのように平面形を合わせ粘土を盛っている。さいたま市大谷場小池下遺跡（35）12 住（第 9 図 1）では、柱穴を覆って祭壇状遺構が設置され、その柱穴直上付近に破碎土器が置かれており、土器が加わる祭祀が柱穴を意識して行われた状況を呈している。

祭壇状遺構から離れるが、川崎市野川南耕地遺跡 2 住では、発掘過程の詳細な観察記録から、住居廃絶の入念な過程が復原されている（文 171：52～57 頁）。そこでは支柱穴 4 個を持つ本来の生活面（A 面）の上層に、祭祀執行の場となる新たな貼床面（B 面）が構築され、その光景はエリア C に接する柱 1 本のみが残され土堤を伴う形で立つという特異な状況を呈していたという。一本柱であれ柱穴上の祭壇状遺構であれ、エリア C の柱穴が、住居廃絶にあたり特別な存在として象徴的に意識された事例がこれらから窺える。

③炉：炉に小砂利が見いだされる事例が、祭壇状遺構とともに早くに検討対象として注意されていることは先述のとおりである（本稿 10 頁、渡辺③）。川口市戸塚 5 丁目遺跡（56） 5 次調査 3 住（文 84）、稲荷台遺跡（文 3） 48・49 住に小砂利の量に多寡の別はあるが類例がある。拙論（1）では赤化のための加熱処理を想定したが、炉を埋め殺す儀礼という視点は、住居廃絶のプロセスにおける祭壇状遺構としては位置づけていないが、注目していく必要がある。

6 むすび

本稿は、冒頭述べたとおり、これまで大宮台地地域で捉えた様相を汎南関東レベルで見渡す目的で企画したが、結果見いだされた新たな問題の広がりについては、それに分け入る手前で立ち尽くしている感を禁じ得ない。と言いつつも今後に向けていささかのまとめを試みるなら、巨視的には南関東内の小地域様式圏との関連だろう。祭壇状遺構の分布が、前出の「南武蔵北部様式」圏北半（第 1 図地域Ⅱ・Ⅰ）、とりわけ地域Ⅱに重心を置きつつ、地域Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅸと点々と連なる状況、そして対する東京湾岸の「南武蔵南部様式」圏（地域Ⅶ・Ⅷ）では対照的に寡少である状況をどう解釈するかが課題だろう。大宮台地地域から相模湾岸地域にかけての、斑状に分布する諸地域を敢えて連記したが、それらを連ねる様相、また対照的な状況を示す東京湾岸寄りの地域を括る様相それぞれを探り、祭壇状遺構の分布状況の意味を歴史的に裏付ける視点が求められる。より西方の地域を視野に含める必要があるだろう。

住居跡内部に視点を据えるなら、祭壇状遺構は「積む・盛る」系（恒常的）、「撒く・敷く」系（臨時的）を両極とする姿で、居住時—住居廃絶時—住居埋没過程と、異なる時限のステージに見出される。それを設けた祭祀は、何を見つめて執行されたのか。心象に踏み込むには、現段階ではある程度の飛躍を要する。しかしその向こうに見出される具体像は、今後の作業にとって針路の目安となるだろう。合田・関森論考は、「砂・小石の場」が多くは貯蔵穴とともに出入口の脇に設置されることから、出入口に伴う境界観念との関連に注目する。その説を以下の通り理解したい（30～32 頁）。「境界・サカイ」は、空間的には場の内外、場と場の境など異なるスケールで意識されるが、時間軸上では人生における通過儀礼、農事暦に伴う農耕儀礼など通過する節目として認識される。「祭祀の場」・「カミの憑代」として、「砂・小石の場」は、日常生活の時々において機能し「そこに特定の行事に限定する必要はない」^{（註 13）}

それまでの日常生活の舞台を葬るに当たり、住居廃絶儀礼の場に祭壇状遺構が現れるとすれば、時間上の境界観念において、それはふさわしい舞台といえる。日常生活の終点あるいは次なる日常生活への通過点と位置付けるなら、「日常的屋内祭祀の舞台」と「非日常的住居廃絶儀礼の舞台」は二項対立的にではなく同一時間軸の延長上で理解できるだろう。

形而上的広がりを見込みつつ、即物的空間に戻り課題に取り組むことを、今後に期したい。

（2020 年 1 月 20 日稿了）

《註》

- (1) 及川良彦氏からは、本稿の存在とともに関連する教示を頂戴した。また同氏の配慮により、関森氏からは早々に当該論考の抜刷をいただいた。両氏に感謝します。
- (2) その後の知見を加え補正している。
- (3) 文中あえて「資料収集に不備がある。」との言及があり、未確認資料の潜在を見込んでいるようだ。
- (4) 合田・関森論考では、最新段階としてさいたま市御蔵山中遺跡を挙げ「比田井克仁氏の古墳時代前Ⅲ段階」に位置付けるが(24頁)、それが第3次調査14・15住を指すなら、報文では両者は住居に共伴する土器から古墳時代初頭に位置付けられ、14住の高杯を含む和泉式土器群は住居埋没後の一括投棄とされている。下限が前期末に及ぶかは今後に俟ちたい。
- (5) 小倉の区分案に倣いこの名を用いている。拙論(1)では「C空間」としていた。
- (6) 表中、弥生時代後期終末～古墳時代前期初頭(「末初」としたものは、ひとまず除外した。後期の動向をより細かに把握する中で位置づけられるべきだろう。
- (7) 該当部分は、原文では以下の通り(小倉1990、110頁)。やや長いが引用しておく。丸数字貼付と改行は筆者によるものである。

「①遺構を構成する場合には、小礫を含む砂質で粘性を持った褐色土を床面に数cm～10cm程盛り上げ、壇状にしている。このように直接床面に小礫などを含む砂質で粘性の褐色土を盛り上げ壇状にしているものが多く、その大部分を占めている。

②浦和市宮前遺跡第2区第2号住居跡、北宿遺跡第54号住居跡、与野市与野東遺跡においては、小礫などを含む褐色土が床面からやや浮いたような状態で検出されている。小礫などを含む褐色土は、それらをほとんど含まない褐色土の上に見られ、かためられたりはしていないが、一度褐色土を盛り上げた上でのせられているように見える。

③また浦和市宮前遺跡第15区第1号住居跡や川越市鶴ヶ丘遺跡第7号住居跡などでは、台状遺構と呼ばれる一段高くなった上に小礫などを含む褐色土がみられた。

④与野市札ノ辻遺跡第51号住居跡では、浅いくぼみ状のピットの上に小礫などを含む褐色土を盛り上げている。

⑤また浦和市上野田西台遺跡13号住居跡では、中央部分に小礫などを含む褐色土がみられた。このように壇状に土を盛り上げていく方法や小礫などを含む褐色土のあり方などにはいくつかのあり方をみることができる。」ただし②の説明では、後半で「盛り上げた」としているが、それでは③との違いは「かためられ」ているかそうでないかであり、不分明である。住居廃絶後の覆土を挟んでいる場合も排除しきれないだろう。
- (8) 「しかし、住居内部に砂・小礫の散布することについては、大体において小倉氏の言うように各戸内的な独自性のある祭祀の存在を認めることができるように思われる。」
- (9) F区22住の場合、固さの違いで平面形は認識されるが、床面と高低差を持たない。
- (10) 合田・関森論文では世田谷区堂ヶ谷戸遺跡43住の報文に倣い「礫床」としている。
- (11) このうち王子ノ台遺跡については、報告書にあたれなかったためやむなく詳述から除いた。
- (12) 最も早い発見例だが惜しくも概報にとどまり詳細不明である。
- (13) 以下の結論は、特に後半部分において筆者が抱く祭壇状遺構の具体的なイメージに概ね合致する。「儀式が個から公へ昇華するとき、共同体の利害を体現するものとして首長層のきわめて政治的行為として重層的な機能するものと考えられる。そうした祭祀の階層性の底辺にあった信仰の私的な「場」の一つとして、貯蔵穴周辺が赤砂の持つ意味ではないかと推測され、そこに特定の行事に限定する必要はないものと思われる。」(合田・関森：32頁)

《参考・引用文献》

- 石坂俊郎 2017「屋内祭祀の舞台—赤砂・小砂利の「祭壇状遺構」—」『埼玉県立史跡の博物館紀要』第10号
／2018「屋内祭祀の舞台(2)—ムラの中の祭壇付住居—」『埼玉県立史跡の博物館紀要』第11号
／2019「屋内祭祀の舞台(3)—「貯蔵穴」の諸相—」『埼玉県立史跡の博物館紀要』第12号

- 小倉 均 1988「弥生時代から古墳時代にかけての小礫などが散布する住居跡について」『浦和市史研究』第3号／1990「弥生時代から古墳時代にかけてみられる祭壇上遺構について」『埼玉考古』第27号
- 合田芳正・関森八重美 2019「砂（赤い砂）と小石」『青山考古』第35号
- 長岡史起 1986「遺物の出土位置から見た竪穴住居の空間について」『神奈川考古』第22号
- 古屋紀之 2015「南武蔵地域における弥生時代後期の小地域圏とその動態」西相模考古学研究会編『列島東部における弥生後期の変革～久ヶ原・弥生町期の現在と未来～』考古学リーダー24 六一書房／2017「人間集団を映す甕—弥生時代後期の甕から見た南武蔵南部の部族—」『特別展「土器から見た大田区の弥生時代—久ヶ原遺跡発見、90年—」図録』大田区立郷土博物館

＜報告書等典拠文献＞

※東京都・神奈川県域の報告書の中には、直接当たれなかったものがあるが、資料の典拠にあたる便に配慮し、合田・関森論考に基づき掲載した。

埼玉県教育委員会 埼玉県遺跡発掘調査報告書：1『鶴ヶ丘』第8集1976

(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書：2『札之辻・小井戸』第55集1986／3『稻荷台遺跡』第139集1994

浦和市教育委員会 浦和市内遺跡発掘調査報告書：4『大古里遺跡（第9・10・11・12地点） 稻荷原遺跡』第15集1991／5『本太5丁目遺跡 宮本遺跡』第21集1994／6『井沼方遺跡・井沼方南遺跡』第25集1997／7『大古里遺跡・井沼方遺跡・井沼方南遺跡』第26集1998／8『別所子野上遺跡・本太5丁目遺跡・井沼方南遺跡・大久保領家遺跡・皇山町遺跡・根岸遺跡』第28集2000

浦和市教育委員会・浦和市遺跡調査会 浦和市東部遺跡群発掘調査報告書：9『馬場北遺跡（第6次） 北宿遺跡（第10次） 松木北遺跡（第3次） 松木遺跡（第5次）』第8集1987／10『馬場北遺跡（第15次） 松木遺跡（第12次）』第14集1990

浦和市遺跡調査会 浦和市遺跡調査会報告書：11『別所子野上遺跡発掘調査報告書』第22集1982／12『北宿・馬場北・馬場東・馬場・小室山遺跡発掘調査報告書』第24集1983／13『西谷・和田南・大北・大間木内谷遺跡発掘調査報告書』第25集1983／14『善前南遺跡発掘調査報告書』第30集1983／15『吉場・西谷・宮前・大間木内谷・和田西遺跡発掘調査報告書』第34集1984／16『梅所遺跡発掘調査報告書』第43集1984／17『馬場北・馬場小室山遺跡発掘調査報告書』第50集1985／18『和田南・宮前・西谷・和田西・大間木内谷・吉場遺跡発掘調査報告書』第58集1986／19『北宿・馬場北・馬場小室山遺跡発掘調査報告書』第62集1986／20『上野田西台遺跡発掘調査報告書』第73集1987／21『北宿・馬場北遺跡発掘調査報告書』第91集1988／22『北宿遺跡発掘調査報告書』第99集1988／23『大間木会ノ谷遺跡発掘調査報告書』第104集1988／24『上野田西台遺跡（第4次）発掘調査報告書』第108集1988／25『会ノ谷遺跡発掘調査報告書（第2次）』第110集1989／26『谷ノ前遺跡発掘調査報告書』第115集1989／27『本李遺跡発掘調査報告書（第3地点）』第122集1989／28『馬場東遺跡発掘調査報告書』第139集1990／29『会ノ谷遺跡発掘調査報告書（第3次）』第145集1991／30『北宿遺跡発掘調査報告書（第17次）』第151集1992／31『大北遺跡発掘調査報告書（第6次）』第156集1992／32『子野上遺跡発掘調査報告書（第4次）』第159集1992／33『中原後遺跡発掘調査報告書（第7次）』第177集1994／34『芝原遺跡発掘調査報告書第3次』第180集1994／35『井沼方遺跡発掘調査報告書（第12次）』第185集1994／36『上ノ宮遺跡発掘調査報告書』第186集1994／37『白幡上ノ台遺跡発掘調査報告書（第4次）』第189集1995／38『別所子野上遺跡発掘調査報告書（第6次）』第197集1995／39『大久保領家片町遺跡（第13地点）』第215集1996／40『大崎東新井遺跡（第2次）、大崎北久保遺跡（第1次、第2次）、鶴巻西遺跡（第2次）発掘調査報告書』第216集1996／41『東裏遺跡発掘調査報告書（第3次）』第217集1996／42『井沼方遺跡発掘調査報告書（第16次）』第231集1997／43『井沼方遺跡（第13・14・15次）・井沼方南遺跡発掘調査報告書』第241集1998／44『東浦西遺跡発掘調査報告書』第251集1999／45『太田窪貝塚発掘調査報告書』第255集1999／46『桐谷遺跡（第7次）・南方上台遺跡（第1次）・行谷遺跡（第2次）発掘調査報告書』第274集2000／47『東裏西遺跡（第2次）・東浦遺跡（第4次）・下野田稻荷原遺跡（第3次）・大門西裏南遺跡（第

2次)発掘調査報告書』第277集2000/48『別所子野上遺跡発掘調査報告書(第9次)』第286集2000/49『下野田稲荷原遺跡発掘調査報告書(第5次)』第295集2001/50『大間木会ノ谷遺跡発掘調査報告書(第8次)』第297集2001

大宮市教育委員会 大宮市文化財調査報告:51『染谷遺跡群発掘調査報告』第20集1986

大宮市遺跡調査会 大宮市遺跡調査会報告:52『鎌倉公園遺跡』第9集1984/53『深作東部遺跡群発掘調査報告』第10集1984/54『北袋遺跡』第19集1987/55『B-92号・A-230号・A-61号遺跡』第20集1987/56『A-239号遺跡』第27集1989/57『B-101号遺跡 B-7号遺跡』第28集1989/58『C-26号遺跡』第41集1993/59『深作稲荷台遺跡-第2・3次調査- A-137号遺跡』第44集1994/60『土屋下遺跡』第47集1994/61『丸ヶ崎遺跡群-I-』第50集1995/62『三崎台遺跡-第3次調査-』第56集1996/63『御蔵山中遺跡-第3次調査-』第57集1996/64『峰岸北遺跡』第59集1998/65『A-61号遺跡-第2次調査-』第62集1998/66『大和田本村北遺跡-第2次調査-』第64集1998/67『中里遺跡-第3次調査-』第68集2000

与野市教育委員会 与野市文化財調査報告書:68『中里前原北遺跡 上太寺遺跡』第13集1988

さいたま市遺跡調査会 さいたま市遺跡調査会報告書:69『側ヶ谷戸貝塚-第4次調査-』第9集2002/70『下大久保新田遺跡(第5次) 西堀上ノ宮遺跡(第3次)』第31集2004/71『善前南遺跡(第2次)』第35集2004/72『大谷場小池下遺跡』第42集2005/73『札之辻3号遺跡(第3・4・5・6次) 今宮2号遺跡(第14次)』第48集2006/74『本杣遺跡(第9地点) 中里前原北遺跡(第3次)』第51集2006/75『下野田稲荷原遺跡(第7次・第8次) 下野田本村遺跡(第3次)』第57集2007/76『下野田稲荷原遺跡(第10次) 下野田本村遺跡(第4~6次) 中野田堀ノ内遺跡(第1次)』第107集2010/77『中野田堀ノ内遺跡(第2・3次) 下野田稲荷原遺跡(第11次) 下野田本村遺跡(第7次)』第115集2011/78『立葉遺跡(第2次)』第132集2015/79『C-8号遺跡』第138集2015/80『横根野方遺跡』第157集2014/81『日向北遺跡(第4・5次)』第160集2014

川口市遺跡調査会 川口市遺跡調査会報告:82『篠八ツ・木曾呂北・木曾呂』第14集1991/83『行衛往還通・戸塚5丁目遺跡』第26集2004/84『戸塚5丁目遺跡』第34集2005/85『小谷場貝塚』第40集2011/86『戸塚5丁目遺跡』第41集2012/87『小谷場貝塚』第45集2014

志木市遺跡調査会 志木市遺跡調査会報告書:88『富士前遺跡』1999/89『西原大塚遺跡第45地点発掘調査報告書』第6集2000/90『中野遺跡 第49地点』第7集2004/91『西原大塚遺跡 第120地点 西原大塚遺跡第131地点 田子台遺跡第97地点埋蔵文化財発掘調査報告書』第15集2008/92『西原大塚遺跡 西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書』第13集2009

志木市教育委員会 志木市の文化財:93『志木市遺跡群9』第27集1999/94『志木市遺跡群10』第28集2000/95『志木市遺跡群11』第30集2001/96『志木市遺跡群14 田子山遺跡第81地点 西原大塚遺跡第65地点』第36集2004/97『志木市遺跡群15 西原大塚遺跡第67地点』第37集2007/98『西原大塚遺跡第108地点埋蔵文化財発掘調査報告書』第42集2009/99『志木市遺跡群20』第51集2013/100『城山遺跡第71地点発掘調査報告書』第54集2013/101『西原大塚遺跡第174①地点埋蔵文化財発掘調査報告書』第55集2013/102『西原大塚遺跡第179地点埋蔵文化財発掘調査報告書』第56集2014/103『志木市遺跡群21』第58集2014

志木市教育委員会 志木市遺跡調査報告:104『西原大塚遺跡第110地点埋蔵文化財発掘調査報告書』第9集2005

朝霞市泉水山・下ノ原遺跡調査会:105『朝霞市泉水山・下ノ原遺跡VI』1995

和光市教育委員会 和光市埋蔵文化財調査報告書:106『埼玉県和光市 午王山遺跡-発掘調査報告書-』第9集1993

東京都埋蔵文化財センター 東京都埋蔵文化財センター調査報告:107『菅原神社台地上遺跡』第46集1997/108『多摩ニュータウン遺跡No.200遺跡(第2・3次調査)II』第108集2002/109『八王子市 中田遺跡』第231集2009/110『北区 道合遺跡』第247集2010/111『北区 中里峽上遺跡』第256集2011/112『目黒区 氷川遺跡』第266集2012

板橋区教育委員会：113『志村坂上遺跡 B地点』文化財シリーズ51 1986
板橋区遺跡調査会・四葉二丁目10番遺跡調査団：114『四葉遺跡(C地区-1)発掘調査報告書』1997
板橋区遺跡調査会・四葉二丁目12番遺跡調査団 板橋区調査会報告：115『四葉宮前遺跡発掘調査報告書』第11集1997
板橋区向原遺跡調査団：116『向原遺跡発掘調査報告書』1994
板橋区四葉地区遺跡調査会 板橋区四葉地区遺跡調査会報告：117『四葉地区遺跡 昭和62年度』Ⅱ1988
志村坂上遺跡N地点発掘調査団：118『志村坂上遺跡N地点発掘調査報告書』加藤建設株式会社2002
志村城山遺跡調査会：119『志村城山遺跡第4地点発掘調査報告書』1999
都内第二遺跡調査会・西台遺跡調査団：120『西台後藤田第1地点発掘調査報告書』1999
成増一丁目遺跡調査会：121『東京都板橋区 成増一丁目発掘調査報告』1981
西原遺跡調査団：122『東京都板橋区 西原遺跡発掘調査報告書』1993
北区教育委員会 北区埋蔵文化財調査報告：123『御殿前遺跡』第4集1988／124『田端不動坂跡V』第30集2003／125『文化財研究紀要』第23集2010／126『北区埋蔵文化財調査年報 平成22年度』2012
国立王子病院跡地遺跡調査会：127『赤羽台遺跡 国立王子病院跡地地区』2000
共和開発株式会社・大成エンジニアリング株式会社：128『東京都北区 御殿前遺跡 33・34・35地点』2013
練馬区遺跡調査会：129『中宮遺跡』1991
杉並区遺跡調査会：130『本陣山遺跡C地点』杉並区教育委員会・大成エンジニアリング2013
中野区教育委員会・共和開発株式会社：131『中野区 広町遺跡 発掘調査報告書』2009／132『中野区 広町遺跡Ⅲ 発掘調査報告書』2017
豊島区遺跡調査会 豊島区遺跡調査会報告：133『伝中・上富士前V』第12集 2006
テイケイトレード株式会社：134『落合遺跡Ⅳ 第13次発掘調査』2004
目黒区教育委員会 目黒区埋蔵文化財発掘調査報告書：135『土器塚遺跡(第3次調査)』第20集2007
土器塚遺跡調査団：136『土器塚遺跡(第2次調査)』2000
加藤建設株式会社：137『騎兵山遺跡』2006
世田谷区教育委員会・世田谷区遺跡調査会：138『堂ヶ谷戸遺跡 第13・14次調査概報』1981／139『堂ヶ谷戸遺跡Ⅰ』1982／140『下山遺跡Ⅰ』1982
世田谷区教育委員会・堂ヶ谷戸遺跡第32次調査会：141『堂ヶ谷戸遺跡V』2001
世田谷区教育委員会・堂ヶ谷戸遺跡第50次調査会：142『堂ヶ谷戸遺跡Ⅶ』2008
熊野神社遺跡群調査団：143『山王三丁目遺跡』1991
共和開発株式会社：144『御殿前遺跡-西ヶ原二丁目45番10号地点-』2006／145『東京都北区 中里峽上遺跡発掘調査報告書-中里三丁目18番地点-』2014／146『中野区 遠藤山遺跡Ⅱ』中野区教育委員会2015／147『方南峰遺跡群 方南遺跡 第4次調査』2016／148『板橋区 稲荷台遺跡発掘調査報告書-稲荷台15番1号地点-』2017
大成エンジニアリング株式会社：149『東京都北区 中里峽上遺跡』2007／150『東京都渋谷区鶯谷遺跡』2009／151『落合遺跡Ⅴ 第14次調査』2010／152『東京都北区 御殿前遺跡』2012
国学院大学考古学会：153「弥生式終末期文化展」『若木考古』第73号 1964
八王子市櫛田遺跡調査会：154『神谷原Ⅰ』1981／155『神谷原Ⅲ』1982
八王子市中郷遺跡調査団：156『中郷遺跡』1998
CEL：157『吹上遺跡・神明原遺跡』2015
日野市遺跡調査会 日野市埋蔵文化財発掘調査報告：158『平山遺跡-第13次調査-』第2集1986
神奈川県教育委員会・神奈川県埋蔵文化財センター 神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告：159『向原遺跡』第1集1982／160『砂田台遺跡Ⅰ』第20集1989／161『砂田台遺跡Ⅱ』第20集1991
横浜市埋蔵文化財センター 港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告：162『大塚遺跡-弥生時代環濠集落址の発掘調査報告Ⅰ 遺構編』第12集1991

横浜市歴史財団 港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告：163『大塚遺跡—弥生時代環濠集落址の発掘調査報告Ⅱ 遺物編』第15集 1994

平塚市真田・北金目遺跡調査会：164『平塚市真田・北金目遺跡発掘調査報告書3』2003／165『平塚市真田・北金目遺跡発掘調査報告書6』2008／166『平塚市真田・北金目遺跡発掘調査報告書7』2010／167『平塚市真田・北金目遺跡発掘調査報告書8』2011

そとごう遺跡調査会：168『そとごう』1972

東海大学校地内遺跡調査団：169『王子ノ台遺跡』第Ⅲ巻 2000

佐島の丘埋蔵文化財発掘調査団：170『神奈川県横須賀市 佐島の丘遺跡群発掘調査報告書』2003

野川南耕地遺跡発掘調査団：171『野川南耕地遺跡発掘調査報告書』1982